
東方薬師見聞録

五月雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方薬師見聞録

【Nコード】

N9047Y

【作者名】

五月雨

【あらすじ】

知らない間に、というか気がついたら見知らぬ森の中に飛ばされていた。

彼は、自らの名前すらを思い出すことができなくなっており、その場で自分のなまえを定める、『出雲』と・・・・・・・・・・。時を同じくして、神々の住まう天界は荒れていた。

新しく作った世界に間違えて人を送り込んでしまう事故が多発していたのだ。

そんな事故の犠牲者の彼は、知らない間にチートをもらい、その力

で生き抜いていく。

この物語は『人』、『妖怪』、『神』とふれあい、『世界』を、そして『歴史』を見つめながら生きる彼を描いたものである。

出雲、異世界へ飛ぶ。(前書き)

どうも、寂しがりやの五月雨です。

ソードアート・オンラインと悩んだ結果、こちらにしました。

『武器と魔法と技術と知識は使いよう』や、『僕達のIS 』《イン
フィニット・ストラトス》』とは、ちょっと違った感じの主人公で
すので、おかしいところがあるかもしれない。

何か問題があった場合は、どしどし送ってください。

では、東方の二次をお楽しみあれ

出雲、異世界へ飛ぶ。

ここは・・・・・・・・・・どこだ？

さっきまで俺は自宅にいて、和室に日本刀を取りに行った。

その後、道場に行こうと扉を開けたらこれだ・・・・・・・・・・

俺は一人、森の中にいる。

べつに他に何かをしたわけじゃない。お地藏様を蹴ったり、神社の鳥居を壊したりなんていう罰当たりな行為は一度もしたことがない。それに、神様に会ったりしたわけでもなく、なぜか森の中にいる。良く森の木々を見ると、凶鑑などで見たことのあるような樹ばかりだ。

なんと言えば良いんだろうか？

えーと、恐竜図鑑とかで見ると感じるような感じがなやつ、あれだ。んで、何で俺はこんなところにいるんだ？

冒頭にも言ったが、大事な事だからもう一回言っというた。

とまあ、そんな不運に合っている　　だ。

？あれ、俺。名前何だっけ？

やべえ、思い出せねえ・・・・・・・・・・。どうしたもんかなあ。

まあいいや、思い出せねえもんはしょうがねえ。新しく自分の名前ぐらい考えるか。

そうだな・・・・・・・・、苗字は後だ。

とりあえず、名前だけ決めておこう。

俺の出身は日本の島根県だった。

だから、昔の地名は出雲か石見だったわけだが・・・・・・・・。

石見なんて名前は格好悪いな。じゃあ、出雲だ。俺はこれからは出雲と名乗ろう。人と会えれば、の話だけだな。

まあ、なんだ……。腹が減ったし、なんか食つか。
出雲は、実のなった木へと歩み寄っていった。

そのころ、とある天界では……………

「ああああー！ー！ー、やっちゃった。間違えて一人違う世界に送っちゃった。どうしよう」

一人の神が、パソコンのような機械の前で頭を抱えながら叫んでいた。

当然、その姿はとても目立ち、周囲の神が何事かと集まってくるありさまだった。

「どうしたの？」

様子を見にきた神の一人が、訊くと、

「間違えて違う世界に一人送っちゃった」

頭を抱えたまま、一人の神が答える。

「ああ……………。多分×××のせかいでしょ？」

「何で分かるの？エスパー？某学園都市で教育受けてきた？」

「違うわよ……………」

一人の神の疑問はあっさり切り捨てられる。

「まあいいわ。×××の世界はできたばかりでしょう。さっきからその世界に間違えて送り込む事故が多発しているみたいよ。送り込む時代は違うみたいだね……………」

「へえー！ー。じゃあ、アフターケアとかしなくても大丈夫かな？」

「ダメに決まっているでしょうがっつっつ」

天界に、小気味のいい、炸裂音が鳴り響いた。

「まったくもう、あいつも本気で殴ることはないだろうに。それだから男勝りとか言われて婚期を逃すんだよ。はあ……………」

×××のせかいだから能力でもつけてやれば大丈夫だよな？」

先ほどの、ミスをした神は、残像が発生するほどの速さで、キーボードに何か打ち込んでいた。

「えーと、いいや、とりあえずは『自然を操る程度の能力』にしておこう。この能力がどうなるかは、彼自信の努力によってだね。あとは、不老不死ぐらいでいいか？さあ、これでよーし」

陽気なままの声で、処理を終えた。

今後彼がどうなるうが、自分の責任だはないといわんばかりの明るさで……………。

まあ、もしこの神がそんな風に彼を扱ってしまったえば、先ほどの婚期を逃してしまった神から肅清を受けるであろうが……………。

出雲、異世界へ飛ぶ。(後書き)

感想等を書いていただけると幸いです。

出雲のパーフェクト恐竜狩り教室（前書き）

どうも、寂しがり屋の五月雨です。

これまで僕が書いてきた二次とちがっておちゃら気が多いこの二次ですが、よろしく願います……。

出雲のパーフェクト恐竜狩り教室

どうも、知らない世界に19歳の誕生日の日に転送された出雲だ。

まあ、このまえ暑いから風ふかねえかなあー。なんて思ったら風が吹いて、もしかしてと思って気温が下げれと念じたら本当に下がってしまったて驚いたわ。

で、まあ実験してみるべしということでも雷落ちろと念じたらまじで降ってきやがった。

いやあ……。冗談のつもりだったからけっこう近くに落としちゃまって軽く感電した。良く死ななかつたと思うよ。

で、どうやら、とりあえず人はいないらしい。なぜか？かんたんだ。

そこらじゅうに恐竜がいるからだ。

HAHAHAHAHA、さすがに最初に見たときはビビッタぜ。でまあ、食われそうになつたから雷落として殺した。

うん、まあ適度に焼けていてうまかつたかな？

とりあえず不味くはなかつた。

で、ここ最近、つかえることに気づいてしまった能力の鍛錬に当たっているわけだ。

いろんなことを試してみたところ、俺は自然を操ることができるらしい。まあ、かなりいろんなことができる。

このまえは、恐竜の周りに酸素と水素集めて、そこに火を投げ込んでポポポーンしてきた。

かなりチートな能力だけど生きていくのには不便じゃねえどころかかなり便利だ。

だから、なんだかんだいつでもこうしていきとられる。まあ、ありがてえ話だ。

んじゃ、いっちょいけますか。

雷の音で右肩の蝶……。ミュージックスタート。

出雲のパーフェクト恐竜狩り教室（後書き）

感想などいただけるとありがたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9047y/>

東方薬師見聞録

2011年11月28日04時19分発行